

平成 26 年度 鳥取東高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

鳥取東高校は、普通科と理数科を併せ持つ進学校として、「21世紀の鳥取、そして、日本を支える人材の育成」を目指し、学校長のリーダーシップのもと、教職員が連携して教育活動にあたっている。その基本的な考え方は「しのめプロジェクト」として体系的にまとめられ、教育実践に移されている。特に地元社会との関係を重視した「地域の社会を支える人材」の育成は、「民」の力を重視する建学の精神と地元に多大な貢献をしてきた多くの同校出身者の思いに支えられながら、これからますます重要になってくる地方振興の担い手づくりとして期待される。

指導にあたる教職員の教育課題に対する認識と意識の高さ、教職員間の迅速で綿密な連携、生徒に対する細やかな観察と愛情あふれる指導などにより、生徒たちは落ち着いて勉学や部活動に励み、大きな成果を上げている。今後は、より高い目標に向けて指導の充実を図っていくことを望みたい。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 各教職員が自信を持って授業に臨んでおり、質の高い授業が行われている。生徒の授業態度も良く、集中して取り組んでいる。これは教科ごとに生徒の授業評価を実施して授業改革を行っている成果のあらわれだと考えられる。
- ② 進学指導では、長年にわたって蓄積された学校独自の指導資料を作成し、それをもとに自信を持って指導にあたっている。必要な生徒には教職員から声をかけ、生徒の希望を引き出しながら不安を解消し、より高い目標に向けて自信を持たせるようにしている。
- ③ 生徒は落ち着いて生活しており、問題行動などの発生もきわめて少ない。教職員間の連携がよくとれているために生徒の小さな変化に早く気づくことができ、問題に対する対応を迅速かつ丁寧に行うことができている。
- ④ 健康についての自己マネジメント力向上を目指し、保健室が中心となって個別の指導や相談活動が綿密に行われている。また、生活習慣アンケートを実施し、問題分析とその対応が検討され、結果や対応策などの必要な情報は、保健便り・広報誌などにタイムリーに掲載されて生徒への指導に役立てられている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 自己評価表の中長期目標や重点目標は教職員に共通理解が図られているとは言い難いので、「しのめプロジェクト」の基本理念を再度確認し、学校長の考え方を明確に示していくことが必要である。
- ② 教職員の研修について、学校課題が何であり改善すべき点がどこにあるのかを明確にしたうえで、学校として統一したテーマを持ち、組織的に授業改革の研究を進めていくことが必要である。
- ③ 図書館の積極的な利用や読書活動の推進は十分とはいえないので、学校教育全体に位置付けられた取組が必要である。
- ④ 学校関係者評価委員は年齢がほぼ同じ方ばかりであり、もっと若い年代の方に委嘱してもよいと考える。また、理数科について評価し意見を述べることのできる委員の選任が必要である。
- ⑤ 学校のホームページについては、その有効性を再確認し、根本的に作り直す必要がある。運用が一部の教職員に任せられているので、負担軽減を図る必要もある。
- ⑥ 学校近隣の住民との連携を密にし、幅広く要望や意見を聞いて対応するとともに、学校の情報を公開して理解と協力を得る必要がある。